



苗床化産卵地獄

～繁殖苗床にされた見習い系術師～

基本CG 8枚

本編CG 65枚

「あぁっ！もうっ！いくら人手不足だからって
こんな時間に学院生まで動員するなんて！」

全国各地で妖魔が急増し退魔師や呪術師が不足していた
まだ退魔師などの家系が多く通う学園生で、まだ見習いの紗奈は
文句を言いながら得意の糸術を使い迫りくる妖魔の触手を切り裂いていく



「まったく…明日だって普通に授業があるんだから…
はあ…この後、報告もしなきゃいけないし遅くなっちゃうなあ…」
パラパラに切り裂かれ崩れていく妖魔を冷めた目で見ながら
操った鋼糸を回収していく



「あ…あれ？」

回収しようとした鋼糸が妖しく光、意図していない動きをし始める

「な…何これ？このっ勝手に動くな！」

必死に鋼糸の制御を取り戻そうと気を流すも無茶苦茶に動き出す

「うわっ何さっ…あぶなっ」

人間よりも丈夫な妖魔をも切り裂く鋼糸は紗奈に襲い掛かる



鋼糸の制御に手間取っていると倒したはずの妖魔が再生していき
再び紗奈に襲い掛かってきた

「ちょっちょっとなんって」
「今はだめだって」

襲い掛かる妖魔に気を取られ鋼糸の制御が途切れてしまう



紗奈の制御が離れた隙をつき鋼糸が紗奈の身体に
巻き付いていく
「あっ、っ、しまった!!」





「へいっの…ほなやっ…」

紗奈は鋼索を奪われるも抵抗したが
服はボロボロになり宙吊りにされてしまった

「うっ…こんな言葉も通じない下級妖魔だ…」

ギィ

ギィ



触手が紗奈の身体に近づき、まとわりつ

「あ…あひるな…」

「いの…何よがっけ抜けてるぞう…」

紗奈は身を振り拘束から抜けようともがく

くっ…

…

…

スッと紗奈の首元に鋼糸が張られ鋭い痛みが走る

「わい……嫌……待……」

気の込め方で切れ味が変わることを見失っていた紗奈は今
自分がバラバラにされてしまうかもしれない状況を感じ出す





「あ……あ……」

あまりの恐怖からか失禁してしまっ

「おねがい……し……死にたくなんど……
なんでもするから……」

うん……

うん……

うん……

「きゃあああっ!!」

妖魔は言葉を理解したのか紗奈の胸を広げる
紗奈の下着は尿で染みつき秘所が透けていた
「あ……う……嫌……見ないで……」





「う……何をするつもり……」

二二

そろりと触手が紗奈の身体に近づく

(そ……えっ！ええは妖魔は襲った女性を個体を増やすための
苗床にするって授業で……)

いつか学園で受けた授業で聞いた内容思い出して
嫌な予感がどんどん膨らんでいく

113-2

113-2



「ひぁぁぁっ!!」

触手は紗奈のパンツに滑り込み引っ張る
パンツをすられ恥ずかしい場所が空気にさらされる

「ちょっと嫌っー待ってー」

嫌な予感が当たったと紗奈は焦り何とか抵抗しようとする

んっ!?

ぐっ
いっ



「あああああ…」
（そんな…私、妖魔の苗床にされちゃうの…）
助けを呼ぶにも妖魔退治のため人除けの結果を張っているため
少なくとも朝までは助けは来ない
「あ…あ…っ」暗きところれば必ず助けは来るはず…」

粘液まみれの妖魔の生殖器が近づいてくる

「う……」

（な……なにあれ……気持ち悪っ……う……あれって
お……男の人のアレだよな……?）

退魔を生業にする家系に生まれた紗奈は清い身体を保つため
異性交遊には厳しく躰されてきたため知識はあるものの子供の頃に見た親以外のモノを
見たことがなかった

「あ……あんなモノが私に……」

（む……無理！あんなおぞましいモノで犯されるなんて……）

早くも紗奈の心は折れかける

っ!?

ヌルッ

ヌルッ





生殖器が紗奈の股間に触れ中に入ろうとする

「ひっ……ちやっ……ちやっ……嫌っ……触れな……」

おぞましいモノが露く感触に耐えられず思わず声を上げる
しかしそんな声も無視し触手は膣内の侵入を続ける



「うっ!! うっ!! うっ!! うっ!! うっ!! うっ!!」
股間を引き裂かれるかの様な痛みを受け思わず悲鳴を上げる
それでも構わず触手は紗奈の膣内を突き進んで行く
「うっ!! うっ!! うっ!! うっ!! うっ!! うっ!!」

血が流れるほどの激しい痛みが治まり、甘いしびれが紗奈の腰にジンジンと流れ出す
妖魔の生殖器から苗床に悦びを与えるために神経を侵す高濃度の媚薬成分が含まれている

触手が膣内で動いたたび下腹部から甘い快感が次々と溢れ出してくる

71

くう

く

んく?

いっく



「はあ…はあ…あ…んん…」
(だ…だめ…頭がボーっとしてきた…こんなところで気を失うわけには…)

無理矢理挿入されてから「転ぶっくら」と膣内を愛撫され紗奈は快感に身を
ゆだねつつあった

あっ…
は…

んあ…

グッ
42

グッ
70

ヌ
42

触手が紗奈の子宮口を貫く
経験したことのない快感に身体が勝手に痙攣する

「ひゅ……あつ、ああああ……」
 「な…何、された…おなか、ぎゅんぐんてえ…っ!」

媚薬粘液により痛覚が浸食され子宮回をこじ開けるような刺激ですら絶頂する





「はっ...はっ...ああ...」
(ごっ)こんなのを、助けが来るまで...」
腰全体で暴れる快感に意識を明滅させ紗奈の中に絶望感が広がっていく

紗奈の子宮にまで侵入した触手が膨張する
「……………急に大きくなりました……………」





触手から紗奈の子宮内へ大量の妖魔の卵が送り込まれていく
卵が膣内を通り子宮口に到達するが紗奈には触手が膨らんだようにしか感じない



「んおっけおおおおおおおおおおおおおおおおお」

子宮口が無理矢理広げられ紗奈の下腹部に強烈な快感がはじける

「おっ、あっけおふおおおおっ♡」

あっ
あ
あ

たった一つ妖魔の卵を産み付けられただけで
紗奈の獣のような嬌声が夜の公園に響き渡る

ビクッ

ビクッ

クッポッ

ビクッ
ビクッ

グッポッ

「んおっ、おっ、ひっ♡こっこれゝ子宮だ、何か入れられてまっ!!」
触手の動きはまだ止まらない

「ひっ、ま、ままだまだやるのっ!!」
「いや…っ、いやあ!!これ以上こんなことで気持ちよくなりたくないっ!!」

はっ
ひっ……

必死の懇願もむなしく触手は容赦なく次々と
卵を送り込んでゆく

ゴッ
ゴッ
ゴッ
ゴッ





「おおおおおおおおおおおっ♡
ほおおっ、おうっ、じ、子宮うっ、壊れっ、壊れっううううっ♡」

「あっ、はぁあっ、は——っ、はぁ——っ」
「とっ、とまった……あぁ……」

激しい絶頂の嵐が落ち着き自分の身体が目映る



「……これ……私のお腹……」

大量の卵を産み付けられ妊婦のように膨れ上がった腹を見て
紗奈は呆然とする

ホッオ……



はち切れそうなほどの膨満感ととめどなく遅いかかる快感に必死に耐える



紗奈の顔元に怪しい液体を滴らせた触手が近づいてくる

「はぁ…はぁ…こ、今度は何…?」
「うう…近くで見ると奈計…き、気持ち悪…!」



「んぶううううううう!!」
「ぐっ!!ほっ、ぶううう!!」

触手は紗奈の口をこじ開け無理矢理侵入する



「んぐっ、うゅゅゅゅ…」
(く)口の中でグネグネ動いてるリ、気持ち悪らァァァァァ
(むぐっ、んんっ、か、噛み切れなァァ)

下級妖魔といえどただの少女の力で触手を噛み切ることにはできなァ

「んん…、…ん…」

(うっ…なんだが舌がしびれてきたよいな…ん…)

口の中で「ん」触手が滴らせた粘液が徐々に紗奈の身体に染み込んでいく

うづパッ

ぐっ

ううー…



口内で動き回っていた触手が紗奈の喉を貫き胃の中まで入っていく

ゴッ

つぼみっ！？

お



「おでっ、おっ、ん、おおおっ！」
（息がっ出来ないつけし、死んじやうけ嫌ついやあっけ）

胃の中に侵入した触手が大量の媚毒を流し込む

「んおっけ、おおおっ、っ、おおおおおおおっけ！」
（も、もう無理だからっ、これ以上ッ、入んないからあぁあ！）

ドクッ

ドクッ

ビュルルル

んおっ

おっ

ビュッ

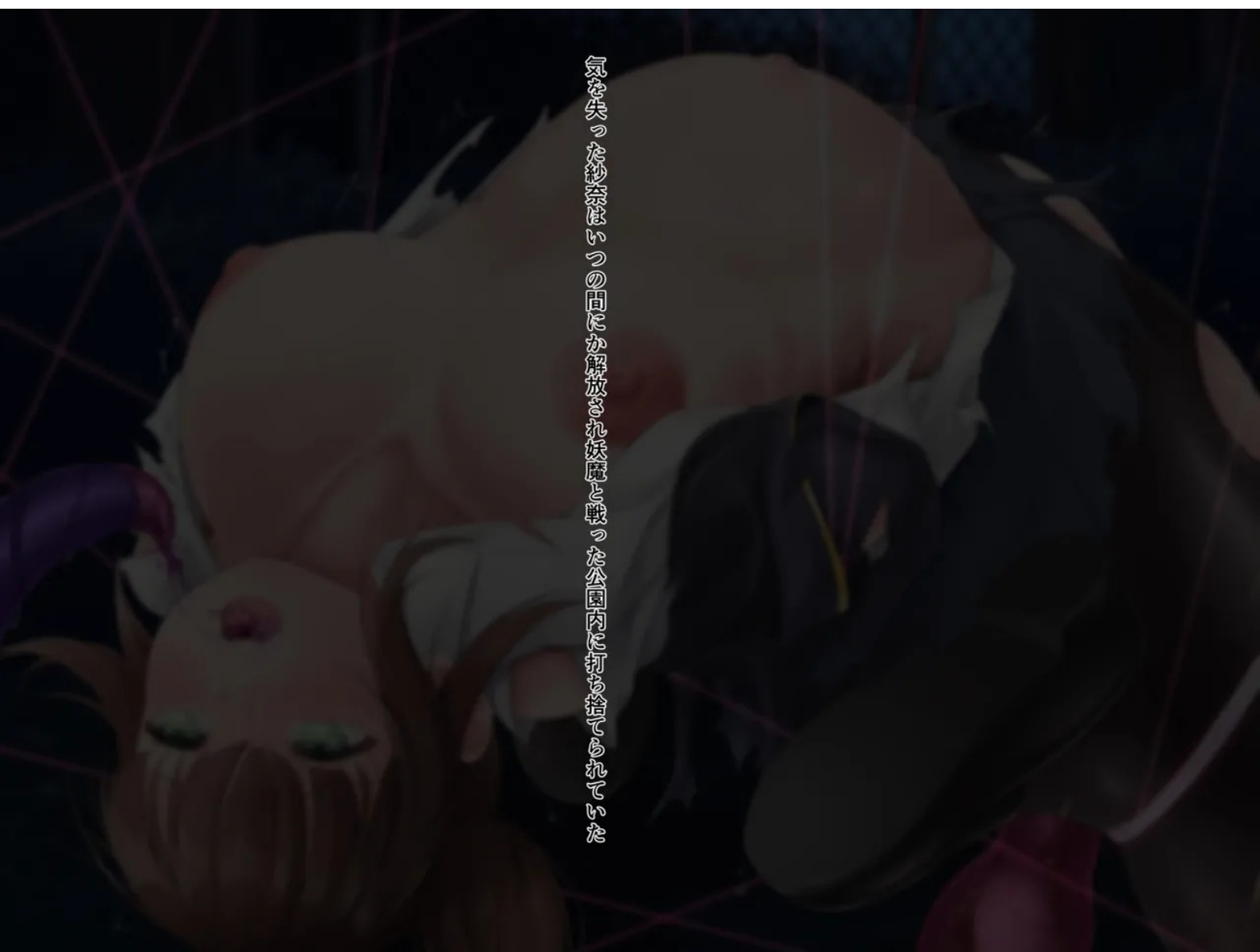
んおっ！！

「おっえっ! おっええっ! ハアッ、ハアッ、はぁ——ッはぁ——ッ」
(や……やっど、息がでてる……)

胃の中を媚毒で満たし、ようやく紗奈の中から触手が引き抜かれる
注ぎ込まれた媚毒は紗奈の身体を徐々に妖魔たちの都合がよいように作り変えていく
徐々に紗奈の意識が遠のいていく



気を失った紗奈はいつの間にか解放され妖魔と戦った公園内に打ち捨てられていた



「はぁっ、はぁっ、は、はや〜…曲をならせ〜」
「もしお腹の中で生まれちゃったあ〜うん〜」

拘束から解放され目を覚ました少女は産み付けられた卵が
胎内で孵化することを恐れ、何とか卵を取り出すと慌てて了た

ド
ウ…

ハ
？
！

ハ
？
…



体内の気を操り念動のように卵を動かして子宮内から無理矢理排出を試みる

「ふーッ、くぅ……ッ、も、もうちょっとなのだよ」
「うう——ッ、だ、だめ……ッ、私の身体ッ、おかしくなってるッ」

紗奈の胎内で卵が動いたび気が狂いそうなほどの快感が身体全体に迸る

「うう……力が入れられない……」



紗奈は覚悟を決め全力でいきむ

「ふッ、うッ、うッ」
（ああッ、イクッ、イクッ、こんな所で、はしたない恰好でッ
イキたくないのにッ）

ようやく膣口から白い卵液を吐す



「うぁッ、ああああああああああああああああッ♡」
「ほぉおッ♡イタッ、イタのッ止まらないいいッ♡」

卵が生み出される瞬間、強烈な絶頂感が何度も押し寄せ身体が勝手にのけぞり
誰もいない公園内に紗奈の嬌声上がる





「はぁッ、へぁッ、や、やっ」と「個……」「ふ、こんなのをあと何回やればいいの……一個でも何回もイッちゃうのだ……」

やっこの思いで卵を産み出すもまだまだ紗奈の腹は大きく膨らんだまま
紗奈の中に絶頂感が広がっていく

……ア……

コッ

ア……

ア……



「ふっ、グウウウウッ！」
(でも、死んじやうかもしれないのに比べたら…っ)

しかし絶望しながらも諦めず腹に力を入れる

ぐっ

りゅっ

うーっ!!

「んああッ♡おとおおッ♡イタイイタッ——ッ♡」

再び強烈な絶頂を迎え産の収縮で卵が勢よく押し出される



「はぁッ、はぁ——ッ、はぁ——ッ」
(や、やっど「個」...ち、ちよつと休憩しな...)

度重なる絶頂の余韻に浸りながら全身の力が抜けていく

ゴッ...



しかし余韻に浸っている時間は許されていなかった
紗奈の耳にビシッ、ビシッとした嫌な音が聞こえてくる

「……」

地面に転がった卵は孵化を始める



あ
え
う

う
う

う
う



ついに卵が孵化し新たな触手がおぞましく蠢く
紗奈の胎内で十分な気を吸収した卵は外気にふれ即座に孵化を始める
「ひっっ、あああああっ!!」
「あ、あんなものが私の中に!?はやくどうにかしないと!」
孵化の様子を目にし、あまりのおぞましさに見舞われる

ニル
ニル

生まれた触手は急激に成長し...



生まれた新たな下級妖魔たちは再び鋼糸を操り秘奈の身体を縛り上げる



「うっ、くううう…鋼糸が食い込んで動けない…っ」
「もういいでしょ…許してよ…何で私がこんな目に…」

媚薬が全身に回り切った身体は抵抗も出来ず動かされるままに
脚を大きく広げられる

生まれたばかりの妖精の触手が紗奈のアンタルを触りだす

あー！

いやー...

ああ...

「ひっ！今度はお尻っ！」
「い、嫌っ、もうこれ以上変なことしないでっ!!」

そんな叫びを無視して触手はアンタルに狙いをつける

ヌル...

ヌル...



触手が紗奈のアナルをこじ開けズブズブ侵入する

おっ!!?

ブツブツ〜

プシャー…

!!?

びび

ブツ
ヤッ

頭がはじけ飛ぶような強烈な快感がアナルから全身に広がって
張り詰めた乳房からも母乳が噴き出す

「ほおっけんおおおお」ッ!!
「だめっだめえっ、お尻っこわれちゃううううう」

ズブ



「ああ…はあ…はあ…や、やっと…おさまった…」
「なんで、母乳まで出て…もうわけわかんないよ…」

少し前に胃の中に流し込まれた媚薬が作用した結果、無制限に母乳が作り出されていた

「くぅう…動きは止まったのにまだソクソクが止まらない…」
「十分遊んだでしょ…早く抜いてよお…」





乳首が膨らんで乳が溢る

イッ!?

4' 2
4' 2
4' 2

ビュッ

フッ

!?

【あはれ】

再び母乳が噴き出し声にならない悲鳴が上がる

ビュッ

ビュッ

運動するようにアナルに侵入した触手も震えだす

チュルルん

アッ
アッ
アッ

アッ

「ツッまっ、まって!? い、今はっ、無理っ、耐えられないからあ!!」
「アアッ!! ダメダメダメダメ」

グッ

グッ
ポッ
ポッ



腸内の深くまで入り込んだ淫手は器用に動き子宮を圧迫し
中に残った卵を押し出す

ほ
あッ♡

お
あッ♡
あッ♡

「おほっ♡んおおおお♡イグッ、イグの止まらないいい♡」
何度も脳内でスパークを起こし意識は快感に支配されていく

ブリッッ

グッ
ブッ





度重なる強烈な絶頂与えてもなお触手の動きは止まらない

「まってまってまってまってッぽんぽんとッ、ぽんとっわれちゃうからああー」
「止めてッーもうやめてええええええ」

ハァーッ

ハァーッ

ハァーッ

ゴッ

ゴッ

いっ





「ほおおお
おほおおおおおおおおおおお」
ツ♥アオツ♥

あ
お

お
ほ
お

ぐ
ん

ブ
ッ

ブ
ッ

ぐ
ん

ぐ
ん

ツ♥

限界を超えたイキ地獄により紗奈の心が徐々に崩壊していく
絶頂感が弱まってくると同時に身体に切なさや疲労がわき上がってくる



「あ、ああ、なんで...もうイキたくないのに...もっと欲しいって
身体が勝手に...」
「壊れちゃった...私の中で何かが...ア...、アア...モット、イッパイ、キモチヨクナリタイ...♡」

「あ……ひ……くん……なに……い……つ……ばい……」

7⁴
11⁰
7

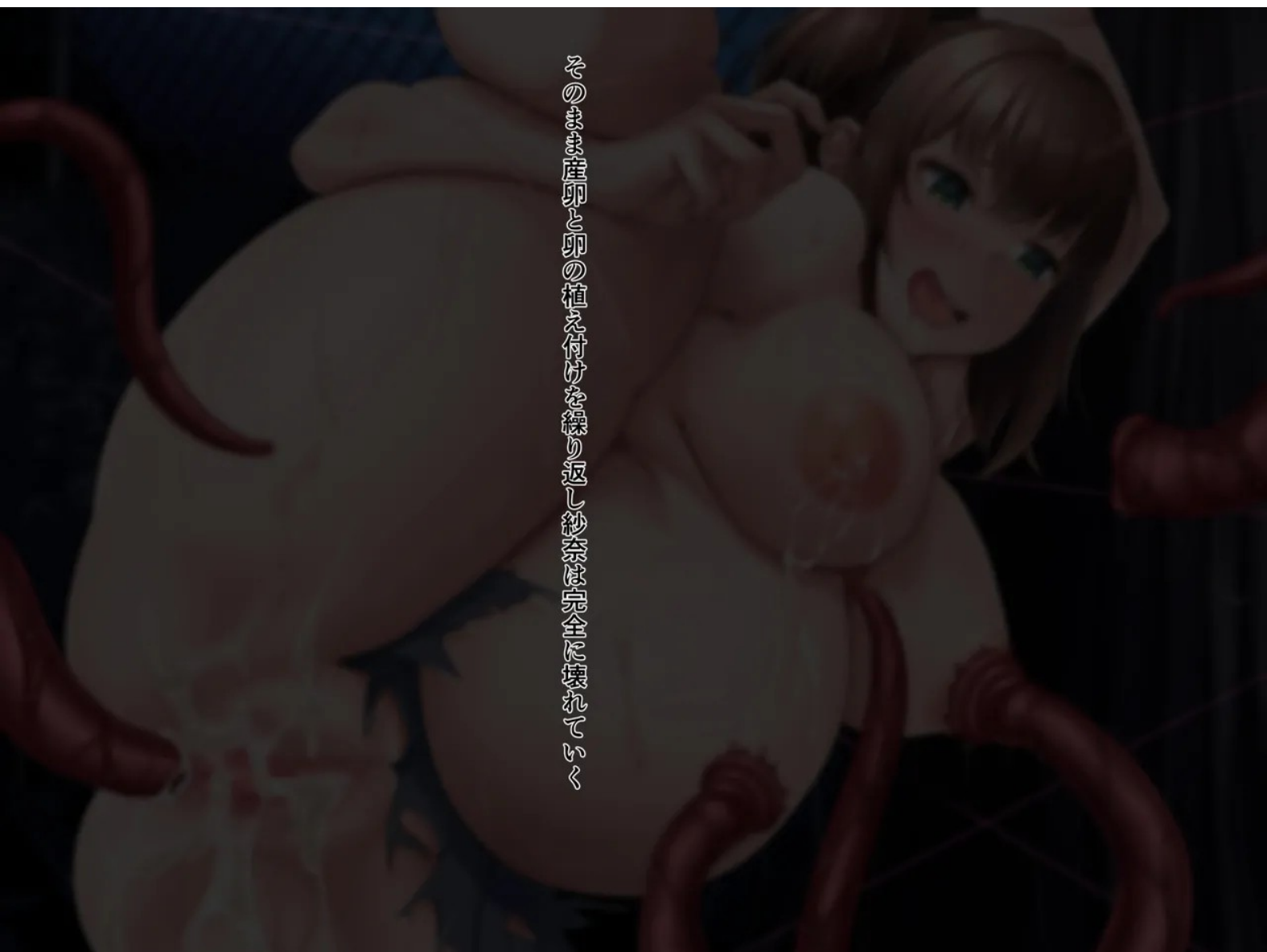
7
16
i

7
11
i

媚毒によって紗奈の自我が歪んでいき、あれほど忌避していた触手に愛おしさを感じる無限に性欲がわき上がってくる

$$= 2 \frac{1}{2}$$


そのまま産卵と卵の植え付けを繰り返し紗奈は完全に壊れていく



「あ……ん……ん」

深夜の公園に紗奈の小さなうめき声が上がっている
強烈な快感に浸り続けた紗奈の自我はすでに壊れていた



「んおっ♡イクッ…♡またイクッ、イグウウッ♡」

媚毒が全身に行きわたり最適化された身体は触手の補助がなくとも勝手に子宮が開き絶頂による脳痙攣で卵が押し出されていく





「ほおおおおおおッ♡おおおッ♡おがっ、あおおおん♡」

恥じらいもなく獣のような声をあげ絶頂感に身をゆだねていた
全身の筋肉の収縮で母乳が噴き出し膣内からは卵が勢いよく押し出される

[illegible]

絶頂に対する強烈な依存状態になりひたすら快楽を求め続ける



「あひまっ♡んへへ...またふえたあ...♡」

もう妙な中では近づいてくる触手たちは快楽をもちあわせてくれる存在でしかなくなっていた
朦朧とした意識の中、嬉しそうな顔で触手たちを迎え入れる

ヌルン

ヌルン



数日後、いつの間にか学園には彼女の席はなくなっていた…

